



1999.7.9  
第109号

編集・発行  
福島県教育庁  
会津教育事務所  
遠藤久夫  
編集協力  
沼田協議会  
北会津・西会津・南会津  
地教委・連絡協議会  
小・中・高



### 学ぶ意欲を支えるもの

福島県教育庁会津教育事務所長 遠藤久夫

NHKのアンテナ塔を横に眺め、  
鳥の緑が眩しい風情のある塀の路  
地を通り抜けると、今朝も、勤め  
に行く人々に混じって、地元の小・  
中学校に通う児童生徒に出会う。

彼等とは、会津の地に居を得て  
からの朝の通勤時のみの出会いで  
あり、特段親しく会話を交わすこ  
ともないが、何度か同じ顔に出会  
うと、妙に親近感を覚え、やすら  
ぎさえ感じようになる。

今、地球上には五十九億の人間  
が生きているという。これほど  
多くの人間のなかでこの会津の子  
供達との、この日、この時、この  
場所での出会いは五十九億分の一  
の人間の出会いであり、その縁  
(えにし)の深さに「抽触れ合う  
も他生の縁」という言葉の重みを  
実感する。

喜々として校門に入る子供達の  
後ろ姿を目で追いつながら、学校や

学級において、日々生活を共にし  
ている、教師と子供の縁(えにし)  
の深さは計り知れないものである  
ことを痛感する。

昨年十二月の小・中学校の新しい  
学習指導要領の告示に続き、本  
年、六月には、「移行措置」が告  
示され、来年度より道徳と特別活  
動等は新しい教育課程により実施  
される。新しい教育が各学校で実  
施される時がいよいよ迫ってきた。  
新しい教育課程は、自ら学び、  
自ら考える力などの「生きる力」  
の育成を目指して行われるだけに、  
今まで以上に子供達の主体的、意  
欲的な学習への取り組みが求めら  
れる。

子供達の学ぶ意欲については、  
これまで多くの研究がなされ、学  
習指導に生かされてきたが、子供  
の意欲的な活動を促す基盤は、学  
級における教師と児童生徒との信  
頼関係であり、児童生徒間の好ま

しい人間関係である。

子供は、教師とのつながりを実  
感し、教師への信頼感をもつ時、  
そして、級友との間に安定した人  
間関係がある時、そこに、心の居  
場所(やすらぎ)を得て、心新た  
な自己発揮の意欲を発動させるも  
のである。

今、新しい教育の実施の時を迎  
え、教師と児童生徒との信頼関係  
の育成が求められている。学校に  
おいて、日々、子供と生活を共に  
している教師が、子供達との出会  
いの縁(えにし)を深く認識して  
子供達にかかわるとき、つながり  
は深まり、信頼感が高まるもので  
ある。

出会いの縁(えにし)に基づき  
築かれる教師と児童生徒との信頼  
関係こそが、新しい教育における  
学ぶ意欲を支えるものであると思  
えてならない。

### 平成十一年度学校教育指導の重点

指導課

本年度の教育事務所「指導の重  
点」は、県教育委員会の重点施策  
や、昨年度の学校教育指導の成果  
と課題等を踏まえて設定しました。  
各学校においては、既に、自校  
化を試みたり実践に移したりして  
いただいているところですが、教  
育活動を一層充実させ、管内にお  
ける諸課題解決に向けて、一層の  
取り組みをお願いします。

#### 一 基礎学力の向上

○ 本年度の自校の課題を明らか  
にし、児童生徒一人一人に基礎  
学力を確実に身に付けるように  
する。

○ IDプラン推進三年目の成果  
が得られるよう、市町村教育委  
員会の推進計画及び各学校の  
「学力向上プラン」の改善を図  
り、指導を充実させる。

#### 二 道徳教育の充実

○ 道徳教育の「かなめ」として  
の道徳の時間を、全教育活動に  
おける豊かな体験活動と関連付  
けて充実させる。

○ 自校の実態を考慮し、特に生  
命の尊重、正義感、思いやりな  
どに関わる指導を、全教育活動  
を通して充実させる。

#### 三 生徒指導の充実

○ 校内の指導体制の確立に努め、  
積極的な生徒指導の機能が学校  
全体に行きわたるようにする。

○ 自校の生徒指導の課題(いじ  
め・不登校・非行等)を明確に  
して、学校不応問題の解決に  
努める。

○ 関係機関との連携・協力を図  
り、地域ぐるみの未然防止に努  
める。

○ 道徳教育と生徒指導の両面の  
充実・強化により、心の教育を  
推進する。

#### 四 教職員の資質・能力の向上

○ 各種研究指定校等から学ぶと  
ともに、小・中教員の活発化や  
校内研修の充実に努める。

○ 身近な授業研究会が充実する  
よう工夫し、教職員個々の指導  
力の向上を図る。

以上のことを各学校の実態に即  
して具体化を図ることが望まれます。

さらに今年度は、現行学習指導  
要領に基づく実践を徹底させると  
ともに、新学習指導要領の趣旨の  
理解を徹底し、移行措置を見通し  
た準備を進めることが求められま  
す。

# 「生徒指導の機能を生かした指導」Q&A

Q 教科以外の内容を指導するの  
が生徒指導ではないのですか。

A 生徒指導は「機能」ですから、  
学校の全教育活動において成立す  
るものです。指導内容が教科内の  
ことであろうと清掃活動であろう  
と部活動であろうとすべて指導の  
対象となります。

Q 生徒指導でよくいわれる「機  
能」とは何ですか。

A 主な機能は三つあります。

①児童生徒に「自己決定の場を  
与える」ことです。人はそれぞれの  
場面での行動が正しいのか自分  
で判断して実行します。この判断  
の基準として、自分のためばかり  
でなく、みんなのためになるかと

生涯学習課では、指導の方針と  
して次の5点を挙げ、指導助言や  
支援に努めている。

## 生涯学習だより

子供たちの心身ともに健やかな  
業・特色ある事業の成果の普及

- ① 市町村教育委員会  
や各関係機関・団体  
との連携推進
- ② 生涯学習の理念に  
立った社会教育活動  
展開の奨励
- ③ 問題点と改善点を  
明らかにした公民館  
訪問の実施
- ④ 各種主催事業、相  
談活動、資料提供の  
計画的実施
- ⑤ 管内外の先進的事  
業・特色ある事業の普及

うかを考えさせることが大切です。

②児童生徒に「自己存在感を与  
える」ことです。児童生徒が学校  
に居場所があることが大切です。

そして、自分の能力を発揮して  
「必要とされる存在」となったと  
き、自己存在感は最高になります。  
自分は学級で邪魔な存在とか、学  
習についていけないお客さんとか  
感じるようでは自己存在感は生ま  
れません。

③「共感的関係を基盤にする」  
ことです。教師が児童生徒の目  
高さで考えたり感じたりすること  
によって、児童生徒と心の通い合  
いができるということ。教師も  
弱さをもった一人の人間である

成長を願って、今年度の重点を以  
下に述べる。

- ①「全国子どもプラン」(緊急3  
カ年戦略)事業についてその成  
果の普及を図る。
- ・「子ども放送局」の開設(金山

### 子供たちの 健やかな成長を願って

- 町、西会津町、河東町、昭和村
- ・「子どもセンター」の設置(会  
津若松市
- ・「子ども地域活動促進事業」(津  
若松市)
- ・「子ども地域活動促進事業」(会  
津若松市、河東町、北塩原村、  
磐梯町)
- ② 家庭教育手帳、家庭教育ノ

ことを自覚して児童生徒を見たど  
きに共感的関係が可能になります。  
Q 三つの機能を生かすためには、  
具体的にどうするのですか。

A 次に一例を示します。

- 「自己決定の場を与える」  
授業で考えを決定する場を多  
く設定する。
- 児童会・生徒会や学校行事など  
の活動内容を可能な範囲で子供  
たちに委ねる。
- 「自己存在感を与える」  
一人一人のよさを見出し具  
体的にはめる。
- それぞれの子供に活躍の場が  
あるように場面を設定する。
- 「共感的関係を基盤にする」  
子供と同じ活動の場に身を置  
いて喜びや苦しみを共有する。
- 悪いことは子供のせいにしな  
いで自分の指導(指導の在り方)  
を反省する。

ト、家庭教育ビデオや家庭教育  
出前講座のビデオの活用を奨励  
する。

③ 学校外活動モデルガイドブッ  
クの活用を促進し、学校週5日  
制対応事業や学校外活動の拡充  
を支援する。

④ 学社連携・融合フロンティア  
モデル事業(北会津村)の成果を  
普及させ、各市町村の連携・融  
合の条件整備について支援する。  
子供たちに「生きる力」を身に  
付けさせるため、国では各都府が  
連携して「全国子どもプラン」を、  
また、県でも学社連携・融合フロ  
ンティアモデル事業を推進中であ  
り、その成果が期待される。  
子供たちの健やかな成長こそ緊  
急課題である。

# 教科と学級の両面から学力向上を目指して

熱塩加納村立会北中学校

## 特色ある学校紹介

本校で「基礎学力の向上」を校内研究のテーマに掲げて今年で四年目になる。全職員による継続的、日常的な研究になるように、次の二つの視点でこれまで取り組んできた。

一、授業の質的改善という視点(教科での取り組み)

それぞれの教科で、授業の質的な改善を図ることにより生徒一人一人の意欲を引き出し、高め、学力を向上させることを目指してきた。

二、日常指導による学習集団の育成(学級での取り組み)

協力し合って、共に学んでいこうとする気持ち育てるために、学級対抗による漢字・計算・スペリングの三つのコンテストを生徒会学芸委員会の企画により実施した。

(その取り組みの中

で、生徒が互いに教え合い、励まし合う姿を多く目にする  
ことができた。)

また、漢字・数学・英語と各試験の受験者も徐々に増え、自ら目標を設定し、その達成に向けて努力するという主体的な学習態度も身につくつある。

今後にも必要に応じて改善を加えながら、継続して取り組んでいきたい。



(グループでのスペリングコンテスト)

## 私の実践

第一学年図画工作科「描画活動」における実践

今年度担任した児童で描画活動に苦手意識を持つことの原因が、意味づけ期（稚拙な線や形などに描いた絵の内容を理解されなかったことや絵の内容が五歳以前の描画発達段階であったことから、次のような実践を行った。

- 一 心理的環境 ○マイナス要因の是正（生活経験での失敗、作品に対する不満、描画技法の未発達）
- 二 情報の把握 ○生活経験の様子から興味関心の把握◎保護者や保育士さんからの聞き取り調査
- 三 描画 ○発達段階に応じた題

## 低学年の指導において、発達段階に視点をあてた支援の在り方

金山町立横田小学校 教諭 寺田 隆一

材設定の工夫

児童が描いた絵の内容を説明している時間を大切にしたり、児童が得意とする虫や動物を題材としたりするなど児童の思いや発想を大切にすることを心がけた。このような手立てによって、基底線の表出が見られるようになり、構図をバランスよく構成したり、人物の手足の厚みや五本の指先を描いたりできるまでになった。

このように、児童の発達段階に立ちもどって実態をとらえて指導してきたことにより、「絵が好き

「図工が好き」という変容が認められた。



〈基底線の表出が見られた作品〉

〈構図のバランスを考えた作品〉

## 教育相談事業

## 教育相談にみる不登校の状況

福島県立学校教育相談員 山内 昇

平成10年度に会津教育事務所学校教育相談員が受けた相談件数は、電話相談件数を訪問相談件数が、わずかに上回ったものの、ほぼ同数です。

相談内容で最も多かったのは、電話相談、訪問相談ともに不登校に関する内容で、相談総件数の半数以上を占めています。特に、中学校の訪問相談ではそのほとんどが不登校についての相談で、不登校問題が中学校において、かなり

深刻な状況にあることの表れであると思われまふ。

この他、学校の種類によって多少の偏りはあるものの、小学校、中学校、高等学校を通して相談の多かった内容は、学校生活不適応、非行・問題行動、家庭内の諸問題、身体・精神的不安、いじめ等です。これ等はいずれも、不登校の誘発要因と考えられる内容を内在しており、これを加えると、不登校関連の相談は、全体の七割弱に達します。また、不登校のきっかけについては、本人自身に関わる問題が最も多く、その大部分が心因性のものであります。その他、主なものに、家庭環境をめぐる問題や親子関係の問題、友人関係についての問題等があります。特に、何気ない友人や教師の言動によって、心に深い傷を負ってしまったり、集団の中で上手に人間関係をつくる能力が不足していることが原因で登校できなくなったりする例が数多く見られます。そこで、本年度はこの現状を踏まえて、継続的にきめ細かな相談を行うため、三人の相談員が、北会津、耶麻、両沼の各方を分担して相談に当たります。さらに、各相談機関との連携強化に努め、実効ある相談活動が展開できるように努力しております。

## 猪苗代城跡

猪苗代町教育委員会生涯学習課

山崎 喜保

## 地域に学ぶ

豊かな自然に囲まれた猪苗代町には古来より多くの人々が居住し、町内には数多くの文化財が存在している。中でも猪苗代城跡は、町の歴史を代表するシンボルとして、町民に広く親しまれている。

この猪苗代城跡は、磐梯山南麓の泥流地形突端部に築かれた平山城で、平面形が亀の形に似ているため「亀ヶ城」とも呼ばれてきた。

十二世紀末に猪苗代氏によって築かれたとの伝承があり、中世を通じて猪苗代氏の居城であったが、近世に入ると数々の大名の支配下に置かれ、後に会津藩松平家の支城となった。なお、本城は一国一城令の際も破却されず、近世を通じて城代が置かれ、幕末まで会津藩の東の要として存続した。

その後、戊辰戦争によって建物などは焼失したが、石垣や土塁、空堀の一部が比較的よい状態で残されており、当時の様子をうかがうことができる。特に、石垣は十

六世紀末に築かれたもので、若松城や二本松城と並び、東北地方最古といわれている。また、石垣をもつ城跡は県内でも十指に満たなく、会津では若松城跡に次ぐ規模の城跡として存在している。石垣の工法は、自然石の長軸を水平方向に寝かせながら、大小の石をバランスよく組み合わせ、目立つところを鏡石と呼ばれる巨石を置くなど、豊臣政権下の城であることを示す特徴を持っている。

春には桜やツツジが咲き、町民の憩いの場となっている猪苗代城跡は、このたび「猪苗代城跡保存管理計画書」が策定されたことで、周辺の自然環境も含めて史跡公園として整備されることになった。



それに伴い、今後は、歴史・自然学習の場として多くの町民から親しまれることを期待している。

# 私の抱負

### 新米校長の喜び

西会津町立野新小学校  
校長 高橋 一郎



四月に赴任した西会津町は福祉・医療・教育に力を入れ二十一世紀に向けた実践が全国に認められている。

そして、学校では、二十一世紀に向けて教育への情熱に燃える教育委員会の指導のもと、新しい教育理念が学校での実践の中に、具体的に現実のものとなっていくのを日々感じることが出来る。未熟な校長にとって、これは、情熱をかきたてられ、生きがいとなり、毎日を生きたきと過ごすことができる。

### よき校風を生かして

昭和村立昭和小学校  
教頭 中村 幸裕



教頭として本校に赴任して間もないが、自分の一挙手一投足が、学校経営や地域に大きく関わることになり、教頭職の重さを痛感している。

他の地域と同様、当村も地元気質が感じられ、「おらが学校」という意識があり、いろいろな立場の方々が訪問してくださる。それだけ、地域が学校にかけられる期待には、極めて大きいものがある。

### 私の抱負

会津若松市立城南小学校  
教諭 深谷 薫



私が小学校三年生のとき、私のクラスに若い男の先生がやってきた。

川で生き物を探しながら遊んだり、ものさしで池までの距離を測ったり、山から木を切ってきてクリスマスツリーを作ったり。毎日、学校に行くのが楽しみだった。

## 心に残る人々



人生六十年間心に残る多くの人々との出会いは、すばらしいものであったと感謝しています。

高校卒業後農業に従事、初めて社会人として冬季季節分枝で勤務した当時の事が、昨日の出来事のように思い出されます。六畳一間で一緒に生活してい

### 昭和村教育委員会教育長

### 野澤 和弘

ただいた先生はじめ、諸先生方には公私共大変お世話になりました。多くの事を指導いただき、実に三年目にお会いしたK先生には、私的な面を含め相談を受けていただき、適切な指導を受け、その後の私の生き方に役立たせていただいた忘れられない心に残る人です。

また、昭和三十九年からの役

## 私の作品

絵

### 「てきとたたかうぼく」

河東町立河東第一小学校  
一年 小倉大輝



「こんなテレビが好き？あつそれ知ってる。テレビに出られたらどんなことがしたいの。」入学して二ヶ月足らずの一年生。話しかけながら、一人一人の空想や夢を具体化させ、のびのびと表現できるように支援した。ボタンや色紙でテレビのスイッチを工夫させると、ますます自分はテレビの主人公になりきり、勢いよく表現できた。(指導者 五十嵐祥子)

工芸

### 「友だち」

北塩原村立第二中学校  
一年 五十嵐さおり



「先生/口の周りに肉の盛り上がりをつける」と、ほら、唇がうまくなりますよ。ひも状にした粘土を張り付けて唇を表現しようとする時、どうしてもおちよぼ口になってしまいます。「おちよぼ口」からの脱却を目指した生徒たちは、顔の筋肉構造を考えたことで、兎事この課題を解決しました。眼球を想定して「目」もうまく表現できました。制作過程で気づいた顔の構造から、生徒の「顔」の観察眼も深くなったようです。(指導者 高橋弘世)

絵

### 「空を飛んだくじら」

新郷村立新郷小学校  
二年 鈴木 通



「空を飛んでみたいと思ってたくじらが小鳥たちに助けてもらい、夢がかなって空を飛んだ。」こんな話を自作し、「くじらさんはどこへ行くのかな」とその後の話は自分で自由に考えさせ、夢が広がるようにしました。空から見る景色に驚きながら空を飛ぶくじらとそのくじらを見守る鳥たち、そして不思議そうにまたうらやましそうに空を見上げる魚や動物たちが生き生きと描かれている作品です。水入れバケツの水をきれいに使用しよう気をつけさせたくらいで、描きだしてからはあまりいろいろな指示をせず一人一人が表現をどんどん広げていくようにのびのびと描かせました。(指導者 皆川千加子)